

新年度を迎えて

平成19年度



24回 理議会・評議委員会報告

第一号議案・定款変更について

都知事選の大騒ぎに、影を潜めた感の県知事選
自立支援法をどのように展開していくのか、地方自治体にまかされる部分も大きく、重要な選挙でしたが・・・。

生活介護事業が新事業として加わる事と支援センターの名称変更のため定款を変更します。

はぐるま総合生活支援センター ↓

はぐるま支援センター

「ぐるまセンター」を設置するための、土地の確保に着手します。

第三号議案・十九年度予算について

《資料参照》

17年度を基本にこの年を100%として3年間の収入の推移を考察しました。

作業所は

18年度小規模通所授産から就労

継続支援に移行し

19年度生活介護事業が

加わることで、収入増が望めます。

ケアホームは

日払い制の影響が大きいこと、移行の初期加算がなくなっていくこと等で、年々減少していることが分かります。

選挙に出かけた仲間が「バザーでよく買ってくれる〇〇さんに入れた」と話していました。こんな評価もあったんですね。

②「はぐるまの将来ビジョン」にそった

施設・設備を整えるための、事業を推進します。具体的には、「仲間の家」は

第二号議案・十九年度事業計画について

①平成二十年には、はぐるま創立二十五年を迎えます。この期にはぐるまのめざす《集団自立の力をつける》活動の実践を振り返り、事業を推進する力となるような研修に力を入れます。

全体的には作業所は増えたが、ホームが減ったことで、大きな収入増にはなっていない。

予算から見られる、大きな問題として

「日払い制」は、仲間の安定した労働の確保・生活の保障とは逆行した制度であることと共に、安定した事業運営ができない仕組みであることが分かります。

	年度別推移		
	17年度	18年度	19年度
作業所	54,624 100%	59,790 109%	72,298 132%
ホーム	67,263 100%	52,603 78%	58,200 86%
合計	121,887 100%	112,393 92%	130,498 107%

単位千円

討議された事項

一、「集団自立」「仲間が主人公」は、はぐるまの理念であるが、現場で実践できていない実態が見られるがどうですか。

二、いずみホームの火災から、職員の危機管理意識が低い、特に事後の連絡徹底がなされていないのは、問題ではないか。

※この二点については、はぐるまの根底に関わる問題なため、多くの時間を費やしました。一つはホーム・作業所を含めた法人としての方針に関わる事です。

近年、利用者の要求は、はぐるままでの生活が長くなった仲間達ほど多様化しています。具体的な要求の中には当初から想定されていないものもあります。(仲間達の発達が著しいとも考えられます)

的確な要求対応は、職員のはぐるま理念に裏打ちされた日々の実践と研鑽が不可欠になりますので、二十五年のまとめをしようとしている最中でもあり、理念に立ち返ることの重要性を感じました。今後の研修に生かします。

もう一つについては法人運営の基本的事柄です。危機管理意識と日々の仕事としての支援者の姿勢が問われています。

特集

はぐるまのメイン活動と言ってもよい地域販売活動の実態を特集します。

「はぐるまの会」の販売は

自立自給の思想

「モノを作りモノを売る」ことは簡単なことではありません。モノ作りは全国どここの作業所でも行われていますが販売となるとその形態は千差万別のようにです。自分達で作り上げた製品を籠に入れて持ち、電車やバスに乗り一軒一軒歩いての訪問販売を基本に電話による受注活動や宣伝チラシを作り販促したり、時にはイベント参加の出展をして声をからしてお客の呼び込みなど等のノウハウを駆使して日々努力を重ねています。そこには仲間や支援者たちの並々ならぬ自己との格闘ドラマが満ち溢れています。花ハウス喫茶部を含め「はぐるま」関係全ての販売・売上げに対して関係各位の全面的協力支援が不可欠の時期が来ています。

販売活動のある一日

菅工舎職員 金田圭一

新年度にかわり、最初の金曜日。桜の花
びら散る中、この日もかごを背負って行商
に出かけました。

この日の行き先は川崎大師。一年間安泰
のお願いをかねて、年度の初めにはまずこ
こから、というコースを旧第二作業所から
引き継いだ縁の場所です。

大きいコースということもあり、七つの
かごに、仲間十三人、引率職員三人という
大所帯で出かけました。

ちなみにかごの中身は、ふきん（五枚入
り）が十個、タオルハンガーが五個、長い
エプロンが三個、ギャルソンエプロンが
五個、そしてお店に手渡すチラシがどっさ
り。なかなかの重さです。

中野島駅から南武線で川崎駅へ。電車は
九時過ぎでも結構混んでおり、みんな他の
乗客にぶつからないようそれぞれつかまっ

て立っています。溝口でさらに混み、向河
原でたくさんの人が降りて行き車内がほっ
とします。川崎駅からはさらに臨港バスに
乗って目的地へ。

販売が始められたのはすでに十時半。仲
間は二人ペアになって一人は説明する係、
一人はチラシをわたす係、と役割分担を決
をして、・・・まず一軒目。

「こんにちはー」
「はい？」

「川崎市多摩区から来ましたはぐるま菅工
舎です。自分たちでつくった物を販売しに
来ました。ぜひ見てください！・・・」

仲間は自分がやった仕事、どんな品物が
あるかお話しします。

「んーウチもお客さん来なくて買ってあげ
たいけどお金がないんだ。ごめんね」
「チラシだけでも読んでください。ありが
とうございました」

たしかに、年々商店街はシャッターが閉
まり、活気がなくなっていくような・・・
さあ次！

「こんにちはー、多摩区から来ました・・・」

「財布もって来てないから、ごめんね」

「わたしは留守番だから、わからないな」

「あー、知らない、知らない」

・・・なかなか売れず、私も自然と表情が
かげっていきのが分かり、同時に焦り
が・・・仲間の工賃が払えない！

でも、仲間は全く動じず、どんどんお店
に入っていく。前進あるのみ！の姿勢がす
こい。そしてようやく、

「あー今年ももうそんな時期かしら。いつ
ものふきん。それちようだい」

不思議なもので、ひとつ売れるとこれま
での不安が吹き飛び、仲間も調子が出てき
そうすると相乗効果で売れ行きも好調にな
ってきました。（五月発刊号へ続く）

お得意さんが減ってきた

ワカメ・コンブ・くきワカメの販売で最
近気が付く事は、注文のお客さんのお断り
件数が新規のお客数より多いこと。
商品には絶対の自信があるのですがこのま

まではマズイ！なんとかしなきゃ。コンブは生の肉厚、自然のまままで長さも通常市販では手に入らないあらゆる調理に便利に袋詰めされている。その上長期保存が利く逸品、三百グラムで三百円と超お買い得。仕入先の宮城三陸からの産地直送品。ワカメ・くきワカメもお勧めです。

(第一作業所半谷さん談)

北海道の物産・珍味で親睦会

倉科 丈人

三月三十一日(土)に中野島集会所において、初めての試みとして仲間、保護者、地域の方々、職員合同による懇親会が開かれました。

当日は、仲間13名、保護者6名、職員7名、関係ご家族4名の約30名の参加者。懇親会ということもあり、「みんなでおおいしく、楽しく」以外、特に決まりはなく、自由な雰囲気大切にしようとの企画だったため、当日はどうなるやら、心配しましたが、杞憂でした。

仲間は、自分の席で静かに目の前の皿に出されたジンギスカン、焼きそば、飲み物を楽しみ、喧嘩もなく、食べ過ぎもなく(?)仲間一人ひとりが懇親会の雰囲気を大切にしながらの姿で、日頃の作業所やホームで培っている仲間自治力を充分に発揮してくれました。その姿に、参加者は感心、驚き、安心感と様々な意見をもたれたようでした。また、保護者の方々の協力(焼く、洗う、器具の寄付)が無ければ、今回の懇親会はここまでうまく進行できませんでした。食べることを後回しにして、率先して裏方に回りながら、参加者の食事のために奔走していただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

食材も、いずみホーム斉藤さんが地元北海道から調達したものでジンギスカン鍋が振舞われ、みんなで舌鼓を打ちながら、「また、是非懇親会を！」と一様に意見を交換しました。このような積み重ねが、今後の困難を乗り切る大きな力になると信じています。



はぐるまバザー開催のお知らせ

日時 五月四日(金) 午前十時より

会場 中野島二ヶ領公園

内容 模擬店(うどん おでん 焼き鳥他)

ジンギスカン北海道コーナー

掘り出し物なんでもコーナー

はぐるま野菜の即売

南三陸のワカメ・コンブ・くきワカメ
はぐるま自主製品 フキン・小物

ボランティア活動としての

ビデオ製作

中村 義一

自分の意思によって、自分の時間や労力を社会のために役立てようと思い、数年前からボランティア活動に参加することが盛んになってきているようです。検索サイトのヤフーでも神奈川県内だけで八十一件ものボランティア情報が載っています。

昨年十月に仲間たちも富士山清掃ボランティアに参加しました。職員を含め、各人それぞれ何かを感じたことでしょう。

清掃ボランティアの活動をビデオ記録として残すということで、私も一緒に同行して記録撮影を担当しました。初めての試みである清掃ボランティア合宿の様子を、記録として残すだけでは物足りないと感じ、記録内容を編集して誰にでも観てもらえる作品に仕上げようと思いました。

映像編集において、素材の質と量が満足した完成品になるかのカギとなるので、当日の模様だけではなく、事前学習等の様子

も撮影し素材集めに努めました。(質については本人の努力しだいで・・・)

撮影も全て終わり、休日は自宅での編集作業です。いざ編集を始めてみるものの、最初から明確な構成を考えていなかったため、なかなか前に進みませんでした。また、富士山清掃に行ったにもかかわらず肝心の富士山の映像がないと分かり、慌てて河口湖までバイクを走らせる日もありました。

六時間分の記録テープを二十分の作品にまとめることは思っていたよりも時間を必要としてしまいました。完成を楽しみにしていた方々には進行状況も報告せずに行っていたことをお詫びいたします。是非出来上がった完成品を観ていただき、小さなことでもよいですので感想をいただければと思っています。

《日々大変お忙しい中村さんに現地撮影までして頂きましたこと、紙面をお借りして、関係者一同より御礼申し上げます。

ありがとうございました。》

きりーとーり

2006年仲間ハイキング

注文書は裏面

「富士山麓清掃活動の記録」 定価 2000円

ビデオ・DVD 出来上がりました。富士の樹海に入り日頃のゴミ拾い技術と見事なチームワークを発揮した「はぐるま」仲間達の感動の記録です。御関係者の皆様是非この機会にお申し込み下さる様宜しくお願い申し上げます。

なお売上利益金は「はぐるまの会後援会」へ寄付されます。

ゆく人 くる人

新採用

春は別れと出会いの季節です。職員もなごりおいしいですが、仲間にとつては共に生活してきたので別れがたいことでしょう。大変お世話になり、ありがとうございました。時間があればのんびりと「花ハウス」にお越し下さい。

退職された職員

原地 美代子さん

いずみホーム↓あぐりホーム

(調理)

井田シゲノさん

いずみホーム

(調理)

勝又 美樹さん

あおぼホーム

(調理)

小関 和則さん

みどりホーム

(宿直)

江口 成子さん 看護師

週二日勤務 各作業所を巡回し健康相談を行います。仲間個々の健康カルテを作成します。看護の立場から仲間を見守ってくれる、待ちに待った存在です。

保育園・小学生のお子さん3人のお母さんでもあります。

ブルーメ事業所の皆さん(代表 原田 万里子)

いずみ・あぐりホームの調理

いずみホームで既に調理をしていただいていますので、はぐるまのシステムはご存知です。原田さんには、安心してお任せしています。

毎日食材の調達や、仲間の生活も見ていただき、活躍中!!!

みどりホームの小関さんの後任は、職員が決まるまで、旧職員の佐野さんにお手伝いしていただくことになっています。

お 申 込 書 年 月 日

仲間ハイキングの記録 ビデオ・DVD どちらかに丸印

定価2000円 ()本・枚 申し込めます。

御住所〒

ご氏名

TEL

ご注文はファックス・又はお電話でお願い致します。送料は実費をいただきます。

TEL・FAX 044-946-1308 はぐるま共同作業所迄